

高勝寺の薬師堂に、方上保の下地を寄進す。

【須須神社文書】 珠洲郡

八七二

奉寄進薬師堂下地事

合貳拾分皆西在所三崎谷

右此下地者、高勝寺薬師堂奉寄進意趣者、爲公私御祈禱、方上保惣領分内此田、於以後代管作人雖有菟角儀、不可有承引候。子細者、此二十町、此間作人籠置候之條、依闡出寄進申候。仍支證狀如件。

文安四年十二月廿七日

深井彈正忠 在判

文安五年

戊辰

紀元二二〇八

八月廿八日。幕府、加賀守護富樫成春をして、山城臨川寺領石川郡大野莊に諸公事を免除し、守護使の入部を停めしむ。

【臨川寺文書】 山城

八七三

臨川寺領加賀國大野庄、段錢・臨時課役以下諸公事爲免除地之處、動有其煩云々。不可然。早任度々御判之旨、

向後彌可被停止使者入部之由、所被仰下也。仍執達如件。

文安五年八月廿八日

右京大夫 在判

富樫次郎殿

【臨川寺文書】

八七四

臨川寺領加州大野庄内諸公事以下事、任去年八月廿八日御教書之旨、可被停止使者入部由候也。仍狀如件。

文安六年三月廿二日

光 朝 在判

本折越前守殿

遵 任 在判

十二月。珠洲郡若山莊馬縹本光寺住持瑞溪、同寺領の指出を注す。

【本光寺文書】 珠洲郡

八七五

能登州若山庄西海馬縹本光寺指出之事

壹段 吉弘散田之内

應安元八月七日

左衛門尉宗成 在判

壹段 此内捌平八 貳者恒利名之内

永和貳年霜月九日

左衛門尉宗成 在判

陸 乙次郎

沙彌因幡守道宗 在判

應永十三年七月五日

肆段五半 恒利名半分田畠

應永廿六年卯月八日

左近將監範親 在判

日野之快樂院

五代

文安五 十二月日

住持瑞溪御代

文安六年 己巳

寶徳元年 七月廿八日 紀元二二〇九

五月廿八日。本願寺蓮如、河北郡木越光徳寺に、三帖和讃を書寫して之を與ふ。

【本派本願寺藏三帖和讃奥書】 山城

八七六

右斯三帖和讃者、賀州木越光徳寺性乘在京之間、依所望奉書寫處也。

于時文安六年五月廿八日

右筆 釋蓮如 在判

十月。正實坊行運、山城北野社より質物としたる石川郡笠間保を、同社の徳政と稱して押取せることに就き幕府に訴ふ。

【北野神社古文書】 山城

八七七

目安 正實坊行運謹言上

北野社領加賀國笠間保間事

副進

六通 借狀

一通 契狀

右彼社領者、去嘉吉元年二月廿二日契狀見之。然者爲神用要脚、現錢陸佰貫文分、松梅院令借用者也。仍質物仁被笠間保、并逃仁三ヶ所入置之間、本利相當之間者令知行、可遂算用之處仁、號徳政則押取、不能返弁之條、經惡至極也。縱雖行徳政、於人借者、可被任御成法、款之處、仍至神用借物者、混人借一類可被之、希代所行也。然